

# 平成29年度 南アルプス市立若草小学校 第1回自己評価書

若草小学校

校長 澤登 一浩

## 本年度の学校教育目標

- かしこい子ども
- 美しいものに感動する子ども
- 思いやりのあるやさしい子ども
- たくましく生きぬく子ども

## 本年度の学校経営基本方針

- (1) 「生きる力」を育むために調和のとれた教育課程の編成と円滑な実施に努める。
- (2) 確かな学力を育むための指導と評価に努める。
- (3) 豊かな心を持った人間味あふれる子どもの育成に努める。
- (4) たくましく生きるための健康と体力の向上に努める。
- (5) 家庭や地域社会との連携のもとで、安心・安全で信頼される学校作りに努める。
- (6) 教職員が相互に協調・信頼し合い、創意工夫と活気に満ちた学校作りに努める。

## 1 評価方法

児童、教職員、保護者の3者に対して、アンケート用紙により回答を得た。

質問に対する回答選択肢は4段階になっている。

- A：そう思う
- B：ほぼそう思う
- C：あまりそう思わない
- D：そう思わない

の4段階で、このうちAとBは肯定的なプラス評価であり、CとDは否定的なマイナス評価である。AとBのどちらを選ぶか、CとDのどちらを選ぶかについては、回答者の判断材料の有無・回答時点の状況等が関係するため、A・B・C・Dを厳密に区別して集計することよりも、A・B合わせてのプラス傾向、C・D合わせてのマイナス傾向として集計する方が、全体的な傾向をつかみやすくなる。そこで、各項目の回答に占める「A・B」の割合、「C・D」の割合を求め、

- 「A・B」の割合が大きいほど肯定的評価（プラス評価）
  - 「C・D」の割合が大きいほど否定的評価（マイナス評価）

と判断をした。

## 2 全体評価

### I 学校生活について

#### 【考察】

##### 1の項目「学校は楽しいですか」について

「学校が楽しい」と感じている児童の割合は、肯定的な回答（4・3）が9割以上をしめている。ただし、高学年に行くにしたがい、3の「ほぼそう思う」という割合が増えてくる。また否定的な回答（1・2）も9%ほどと高くなっていく。勉強が難しくなること、クラス替えや思春期の入口に立ち人間関係の問題等、その個々に関わりそれぞれ理由がある。QU検査等参考にしながら、楽しくない原因（理由）を明らかにし、その原因（理由）を取り除くための手立てを講じる必要がある。

##### 2の項目「みんなで力を合わせががんばっている」について

「みんなで力を合わせががんばっている」と感じている児童の割合は、肯定的な回答（4・3）が97.4%と高い。5年生以上になる若干否定的な回答（1・2）が多くなるが、概ね良好である。高学年になると学校行事や児童会活動等で、他人のよいところを認め合い、団結したり、協力したりする機会が増えてくる。こういう場を学校生活の中で意識的に設定していき、協力できている場面ではよく誉め、協力していない場面では、適切に指導をしていきたい。

##### 3の項目「困った時に誰かに相談できる」について

児童は、日常生活の中で様々な困難に遭遇する。一人で考えこんだり悩んだりせずに、相談できる人がいることはとても大切である。児童の肯定的な回答は9割を超えているが、3年生・4年生の児童は、1割を超える児童がうまく相談できないでいる。2学期以降、より一層、一人ひとりの児童にしっかりと目を配り、児童が孤立しないような指導を心がけていきたい。

##### 4の項目「あいさつ」について

あいさつは児童会、PTAと積極的に取り組んでいる。全校では96.0%が肯定的な回答（4・3）をした。学校内では4月に比べ大分あいさつが増えてきた。PTAと保護者の見守り隊の広がりに合わせて地域の中にもあいさつが広まってほしい。

##### 5の項目「係や当番の仕事・そうじ」について

係活動や清掃活動は98.6%が肯定的な回答（4・3）である。とても進んでよくやっている。これからは校内美化や環境整備に努め愛校心を育てる教育活動を展開していきたい。

#### 【改善策】

- ◆困ったことを相談できない児童に対しては、注意して様子を見るようにし声掛けを行っていく。（1年）
- ◆何でも相談できることを日頃から児童に伝えていく。困ったことを相談できない児童に対しては、注意して様子を見るようにし声掛けを行っていく。（2年）

- ◆個人名はわかっているので、個に応じた対策をとる必要がある。(3年)  
日々の声掛けなど、不安感を感じさせないようにしていきたい。(3年)
- ◆中学年になると、友達関係も少しずつ複雑になってくる。普段からコミュニケーションを密にし、児童の心の揺らぎを見落とさないようにしたい。(4年)
- ◆児童一人一人に目を配り、個に応じた対応をしていく。(5年)  
挨拶については、4月から考えると、少しはできるようになってきている。引き続き、学年全体で取り組んでいく。(5年)
- ◆初めての委員会活動については、一生懸命やろうという意識は高いが、清掃活動について無言清掃を徹底させたい。(6年)

## II 学習指導について

### 【考察】

#### 6の項目「学校の授業がわかる」について

「学校の授業がわかる」ことは、学校生活を送る上で最も大切なことである。児童の肯定的な回答(4・3)は、どの学年もほぼ9割である。(1年生 88.2%・5年生 88.0%)、これは概ね満足できる結果である。今後ともやまなしスタンダードの活用や校内研究の推進を行い「わかる授業」に向けての授業改善に努力していきたい。また、否定的な回答(1・2)をした7.5%の児童がいることを念頭に置き、より一層教材・教具に工夫を加え、基礎・基本を大切にしたいわかる授業を展開していきたい。

#### 7の項目「先生や友だちの話をしっかりきく」について

校内研究会等を通し「話をきく態度の育成」は全教職員で進めてきた。その成果からか児童の肯定的な回答(4・3)が96.6%と成果が表れてきている。しかし実際には学校生活や学習活動において話をもっと話をきいてほしいと教師側が場面も多い。今後も、話をきく態度について、校内研究会ともかかわりを持ちながら、身に付けさせたい。

#### 8の項目「授業中の発言」について

発言をすることは、きくことに比べると肯定的な評価(4・3)が低くなっている。(発言 79.4% 聞く 96.6%)。6年生では、学年全体で発言を増やす取組を行っていて、そのせいか今年の5年時より改善の傾向がみられている。校内研究としての研究の成果や日頃の取組の中において、自分の考えを「学び合う」学習を意図的に仕組み、更なる改善を図っていきたい。

#### 9の項目「宿題や自主学習」について

肯定的な回答が8割を切り、特に低→中→高と低くなってきている。各学期に行われる家庭学習強化週間の取組の他、県の家庭学習の手引き等を使いながら、児童ばかりでなく保護者の意識を変えていく必要がある。宿題を中心にしっかり家庭学習を行うことが、基礎・基本の定着や学びに向かう力につながることを今後も児童や保護者に伝え、理解と協力を求めつつ取り組ませていきたい。

## 【改善点】

- ◆わかる授業を工夫していく。(1年)
- ◆授業に臨む態勢がまだ身につかない児童に対しては、声掛けを行い常に意識させていく。(1年)
- ◆安心して発言できる雰囲気作り、クラスづくりを心がける。(1年)
- ◆わかる授業をしていく。(2年)
- ◆授業以外でも話す機会を設定し、誰でも安心して発言できる雰囲気づくり、学級づくりを心がける。(2年)
- ◆学校からの宿題を自分から忘れずやってくることから徹底していききたい。(3年)
- ◆家庭と協力しながら自主学習の呼びかけなどをしていく。(3年)
- ◆お互いに、いろいろな考えを交流しながら課題解決する授業を行っている。引き続き、「解決の過程」や「一人一人の考え」を大切にする授業を行っていききたい。また、間違いを気にしたり、恐れたりしない学級の雰囲気を今後も作っていく必要があると考える。(4年)
- ◆家庭学習については、徐々に習慣化してきているので、今後は質の充実を目指していく必要がある。(4年)
- ◆基礎・基本の定着が図れるよう、授業の改善・工夫を図る。保護者の協力も得ながら、家庭学習の定着を図る。(5年)
- ◆「先生や友だちの話をしっかり聞く」という一人一人の意識を高めて、学級の雰囲気づくりに努め、発言にもつなげていく。(5年)
- ◆家庭学習の時間を確保し内容を充実させることの意義や大切さについて、児童や家庭を啓蒙する必要がある。(6年)

## Ⅲ 生徒指導について

### 【考察】

#### 10の項目「きまりや約束を守る」について

児童の生活の中心は学校生活であり、学校の約束やきまりを守り生活できることはとても重要である。児童の90%以上が肯定的な回答(4・3)をしている。5・6年生になると否定的な回答(1・2)が増えてくる(5年生6%, 6年生4.9%)ので、注意が必要である。一人ひとりの児童にしっかりと目を向け、指導にあたりたい。

#### 11の項目「いやがることを言ったり、やったりしない」について

いじめや非行行動に関する質問である。全体的に肯定的な回答(4・3)は9割を超えていて概ね良好だと見て取れる。しかし、特に5年生で否定的に回答(1・2)が26.5%と多い。取組の最中であると思うが、今後も指導が必要である。いじめや非行行動の対処法の基本は、未然防止や早期発見・早期対応である。生徒指導主任とも連携を取りながら必要に応じてチームとしての対応することも大切である。

### 【改善点】

- ◆自己評価を大事にしつつ、ケースに応じた指導を続けていく。(1年)
- ◆児童の実態を把握したり、様子を観察したりしながら、ケースに応じた指導を続けていく。問題が発生した場合には、迅速な対応を行う。引き続き、ルールを守ることの大切さ等について指導していく。(2年)
- ◆実際は・・・という、友達からクレームがある児童もいる。何をしたらいけないのかは、日常の指導で考えさせ、定着できるようにしていきたい。(3年)
- ◆いろいろな個性をもった児童がいる。中には、課題のある児童もいるが、教師の指導だけでなく、周りの友だちの存在が問題行動の大きなストッパーになっていると考える。今後も、個々の指導と合わせて、集団の力を高めていきたい。(4年)
- ◆学年で歩調を合わせて、児童一人一人に目を向けて指導をしていく。(5年)
- ◆きまりを守ることは勿論だが、判断力や倫理観が身に付くよう意識を高める声掛けをさらに強化する。同時に、児童がお互いに声を掛け合うような働きかけをする。(6年)

## IV 学校経営について

### 【考察】

#### 13「共通理解」14「報告・連絡・相談・確認」15「校務分掌」16「学校行事」について

教職員の4つの項目をみると13、14、16については肯定的な回答(4・3)が多く、教職員がお互いに共通理解を図りながら、同じ目標で児童の成長を支えていることができていると捉えられる。15の校務分掌については4の「そう思う」が14.8%、3の「ほぼそう思う」が85.2%と他の項目に比べ、課題があることがわかる。

また学校生活を送るうえで学校行事の果たす役割は大きい。運動会や学芸発表会等、学年の実態に合わせ趣向を凝らした内容となっている。今まで積み重ねてきた伝統を大切に、児童にとってより有意義な学校行事が展開されるよう努めたい。

### 【改善点】

- ◆校務分掌については教職員が多いので、不公平感が無いように考えていく。若い人たちにも分掌の主となってもらい、サポートしていくようにしたい。(1年)
- ◆校務分掌については教職員が多いので、一人の職員に負担がかからないようにすることや、不公平感が無いように考えていく。若い人たちにも分掌の主となってもらい、サポートしていくようにしたい。(2年)
- ◆職員数が多く、それぞれに力を持っているので、仕事量に偏りが無いように細かく配慮する必要がある。場合によっては、年度途中であっても、大きな変更ではなく、仕事内容の微調整が必要だと思ふ。(4年)

## V 研究について

### 【考察】

#### 17の項目「校内研究会」について

昨年度までの研究の成果を引き継ぎ、若草小教育を実践し発展させてきている。100%の職員が主体的に校内研究会に参加し、授業力の向上に努めていると回答している。しかし、「学習について」の項目の中で、授業が分からないと回答した7.5%の児童、きく態度や発言することに否定的な回答をしている児童へのきめ細かな指導が求められている。また、基礎・基本の定着のためにも家庭学習の大切さは、職員の一致した認識となっている。なお一層の啓発に努め、理解と協力を求めている。本校の研究テーマである「学び合い」を中心に据えた、主体的で対話的な学習を通して、深い学びへとつながるよう、今後もさらに研究を重ね、個々の授業改善を図り児童の学力向上に努めていきたい。

#### 18の項目「特別支援教育」について

本校は特別支援クラスが4クラスあり、また普通学級の中にも支援を必要とする児童が在籍している。特別支援教育に対する校内支援体制については、100%の肯定的な回答があった。しかし、その内訳の「ほぼそう思う」の回答の割合が高く、十分満足できる状況にない。その理由としては、きめの細かな対応等について、現状、精一杯のシフトを組んで取り組んではいるが、支援を必要としている児童の全てに十分に配慮が行き届いてはいることのないことである。人手不足ではあるが、学期に数回行われる特別支援校内委員会や夏季休業中の特別支援研修会等を通し、児童の情報交換を密に行い全職員が共通理解した上で支援を行い、さらにきめ細かく、「今後も、一人ひとりを大切に、ともに学び合う学校づくりに努めていきたい。

### 【改善点】

- ◆今後も校内研に主体的に取り組み、授業力の向上に努める。(2年)
- ◆道徳と外国語教育についても、今後、校内研の中で研究(研修)していく必要があると思われる。

(4年)

## VI 施設・設備・安全管理について

### 【考察】

#### 19の項目「安心・安全な教育環境」について

学校は、子どもにとって安心で安全な場所でなければならない。定期的に安全点検を実施し、子どもたちの過ごしやすい環境整備に努めてきた。3の「ほぼそう思う。」が多いが、これからも、訓練や設備修理等をこまめに行い、児童の安全確保と事故防止について努力していきたい。

#### 20「施設・設備」・21「教育備品」について

保護者からの回答は施設・設備に関して3の「ほぼそう思う。」が多い割合ではあるが、肯定的な回答(4・3)が9割を超えた。反面いつも学校を利用している教職員は7割が否定的な回答(1・2)をした。校舎が47年経ち、老朽化も進んでいる。保護者の自由記述の意見を見てもトイレ、暑

さ対策，体育館，耐震・老朽化，学童建設への意見を見て取ることができる。すぐに修繕できる箇所，また予算を計上していくことなど時間や費用がかかるものなど様々ではあるが，個々の状況にあった対応をしていく必要がある。消耗品や備品についても大切に使うことは当たり前であるが，適切に予算要求をしていく必要がある。

## 2 2 「登下校」・2 3 「緊急時対応・訓練」について

子どもたちの安全確保や事故防止についても，日々の指導の充実を図り，様々な場面を想定して訓練を実施している。また，保護者と連携し通学路の安全点検や登校指導を行ってきた。今後も，保護者や地域と一体となり，児童の安全確保や事故防止へのご協力をお願いし，安全教育を推進していきたい。今年度はPTAと連携し，わかき見守り隊の浸透も図っている。あいさつ運動と同時に進めていきたい。

### 【改善策】

- ◆大きなものに対しては，要望を出していく。物を大切にきれいに使うことを，教職員も児童意識していく。(1年)(2年)
- ◆安全点検を定期的に行い，校内でできることはすぐに対応していただいている。今後も，引き続き市への働きかけをしていく必要がある。(4年)
- ◆設備については，修繕を加えながら徐々に対応していく。(5年)
- ◆不具合を見つけたら，すぐ対応し修繕する。(6年)

## VII 保護者・地域住民との連携について

### 【考察】

#### 2 4 「情報発信」・2 5 「授業参観・学校行事」2 6 「保護者対応」について・

学年通信などの各種お便り等の情報発信については，3の「ほぼそう思う。」が84.6%であるが，肯定的な回答が多い。また授業参観についても3の「ほぼそう思う。」が91.7%であるが，肯定的な回答が多い。本校は，月に1度を目安に授業参観や学校行事などで保護者が学校や児童の様子を参観できる日を設けている。今後も保護者や地域に開かれた学校づくりを進めていきたい。保護者からの相談や要望についてもその都度，適切に対応している。学校と保護者とのよりよい関係が築けるよう，今後もさらに協力して良い連携をとっていけたらよい。

### 【改善点】

- ◆保護者の立場に立って連携が進むような計画を立てていく。多忙化に拍車がかからないようにすることは，十分考えたい。(1年)(2年)
- ◆PTA総会から始まり，部会への出席者が少ない。伝達するだけなら，資料の配布のみで事足りるので，今後は，更に魅力ある部会の内容を考えていく必要がある。(4年)

### 3 まとめ

アンケート調査の結果を見ると、教職員の施設・設備、消耗品の項目以外は、肯定的な評価が否定的な評価を上回っている。施設・設備については適切に対応をしていくことが大切であるが、ほとんどの項目については日常の教育活動を継続していくことが大切である。しかし、否定的な評価が高い項目や、肯定的評価であっても、上から2段階目の3の「ほぼそう思う」という回答が多い項目を総合的に判断し、1学期の課題として次にあげる。

#### 【学校生活について】

○Q U検査などの結果をもとに、学校が楽しいと思わないと否定的な回答をした児童にしっかりと目を向け、児童一人ひとりをしっかりと対応していく。

#### 【学習について】

○平成32年からはじまる新学習指導要領においても、自分の思考・判断資したことを表現していくことの大切さがうたわれている。人の話を「きく」ことも大切にしながら、授業中に発言や質問、意見を言うことをさらに増やしていきたい。校内研究とも合わせ、学級・学年で連携した取組が必要である。また自分の意見を発表して友だちと学び合うことは、学力を向上させる上でも大切なことであるとともに、安心して発表が行える学級の雰囲気をつくっていくことは、互いを認め合うことにもなり、いじめのない学級づくりにも通じている。

○学習内容の定着や学力の向上において、家庭学習は大事な働きをしている。現状、家庭学習の状況には個人差が大きい。家庭学習推進期間の設定回数を増やしたり、家庭学習の内容や方法を工夫したりして、家庭学習を充実させていきたい。保護者の理解と協力ももてたい。

#### 【生徒指導について】

○いじめや非行行動に対する未然防止や早期発見について、いじめや悪いことをしたら先生や友だちに言えることが最も大切なことである。児童の日常の様子にこれまで以上に目を配り、子どもたち同士の人間関係の変化にいち早く気付かなければならない。また、学校では、いじめは絶対に許さないという毅然とした態度で指導にあたりたい。

○防犯やあいさつを目的とした「わかくさ見守り隊」の活動がP T Aを中心にして地域に広がりを見せている。児童会・P T A・地域の方々とも協力し合いながら、あいさつ運動を今後も推進していく。

#### 【施設・設備について】

○校舎が47年経ち、老朽化も進んでいる。保護者の自由記述の意見を見てみるとトイレ、暑さ対策、体育館、耐震・老朽化、学童建設への意見を見て取ることができる。すぐに修繕できる箇所、また予算を計上していくことなど時間や費用がかかるものなど様々ではあるが、個々の状況にあった対応をしていく必要がある。消耗品や備品についても大切に使うことは当たり前であるが、適切に予算要求をしていく必要がある。

以上のような課題から、特に今年度取り組む重点項目を次のようにまとめた。



○すべての児童が、学校が楽しいと思えるような学校づくりを進める。

- ・児童会活動の取組を活かし、一人ひとりの児童のよさを認める活動を進める。
- ・児童にしっかりと目を向け、適切な支援や助言を個別に行う。

○PTAや地域の方々とも協力して、あいさつ運動を進めていく。

- ・児童会を中心に、今まで以上にあいさつ運動の取組を進めていく。
- ・わかくさ見守り隊の推進とともに、保護者や地域にあいさつ運動を広げる。

○授業中の発言や質問または意見を言う機会を増やし、発表しやすい環境づくりに努める。

- ・授業の中で、発言する活動を今まで以上に取り入れていく。
- ・校内研究と連動した取組の中で、「学び合い」の場面における、主体的な学び、対話的な学びが行われるような授業を意図的に仕組む。

○家庭学習を充実させる。

- ・家庭学習強化週間を有効に活用し、保護者との連携を取るとともに、児童の習慣化につなげる。
- ・学年や学級単位で、家庭学習の内容を基礎・基本の定着も踏まえながら工夫する。

○いじめは絶対に許さないという毅然とした態度で指導にあたる。

- ・普段から学級の子どもの様子に気を配り、Q U検査を活用するなど、いじめの早期発見、早期解決の取組を行う。また必要に応じてお便りや部会の中で保護者に伝えていく。
- ・いじめ撲滅宣言などの取組を、児童会が中心となり全校で進めていく。(生徒指導とも連動)

○施設・設備について適切に対処していく。

- ・安全点検等を適切に行い、すぐに修繕できる箇所、また予算を計上し時間や費用がかかるもの等、その必要感応じて順位づけを行い、適切に対処していく。市教委等にも評価結果を届け、トイレや体育館等は要求を続けていく。